

本書について

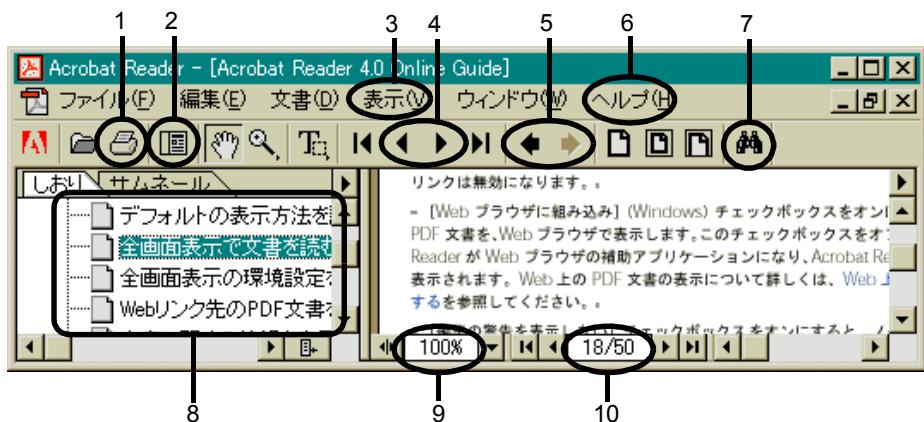
本書では、周辺機器の増設や、BIOS セットアップの操作方法など、ハードウェアに関する技術的な情報を説明しています。作業を行う場合は、本書の必要なページを印刷してご覧いただくことをお勧めします。

プリンタの接続については、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。なお、本パソコンでプリンタをお使いになるうえでの注意事項がありますので、「プリンタを接続する」(☞ P.63) もあわせてご覧ください。

本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)

ここでは、基本的なボタンの機能について説明します。

Acrobat Reader の使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。



- 1 文書を印刷します。プリンタ名、印刷範囲、印刷部数などを指定し、「OK」をクリックします。ページ範囲を指定するときには、ウィンドウの最下行に「1/5」などと表示されているページ数を指定してください。マニュアルのページ表記と違う場合がありますので、ご注意ください。
- 2 しおり／サムネールを表示または非表示にします。
- 3 文書の表示倍率などを設定します。
- 4 ◀で前のページに戻ります。
- 5 ▶で次のページに進みます。
- 6 ◀で今まで表示した画面を逆戻りします。
- 7 ◀でいったん逆戻りした画面を、一画面ずつ進めます。
- 8 しおりの中から見たいタイトルをクリックすると、そのページを表示できます。
- 9 拡大または縮小率を選択できます。
- 10 全ページ数と表示しているページ数を表示します。

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本書では、いろいろな絵表示を使用しています。これは装置を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。

コマンド入力（キー入力）について

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例およびイラストについて

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
VirusScan for Windows95/98	VirusScan
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader
FMV-BIBLO NE4/45K	本パソコン

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
AMD-K6 は、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
K56flex は Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

内蔵モデムの取扱説明書について

本パソコンの内蔵モデムについては、次の取扱説明書に詳しい説明が記載されています。
本書とあわせてご覧ください。

- ...▶「内蔵モデム取扱説明書」

目次

本書について	1
本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)	1
本書の表記について	2
内蔵モデムの取扱説明書について	4

第1章 はじめに

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体右側面	12
パソコン本体左側面	14
パソコン本体背面	15
2 状態表示 LCD について	16
3 キーボードについて	18
主なキーの名称とはたらき	18
テンキー モードについて	20
4 スタンバイ／休止状態について	21
スタンバイと休止状態	21
スタンバイする	22
休止状態にする	26
5 バッテリについて	28
充電する	28
バッテリで使う	29
残量を確認する	30
LOW バッテリ状態	31
バッテリの注意	32
内蔵バッテリパックを交換する	33
6 液晶ディスプレイの明るさを変更する	35
明るさを設定する	35
設定した明るさを変更する	35
7 画面の解像度と発色数について	36
表示できる解像度と発色数	36
解像度や発色数を変更する	37

第2章 ハードウェアについて

1 周辺機器を取り付ける前に	42
使用できる周辺機器	42
周辺機器について	43
2 PC カードを使う	44
PC カードを使うときの注意	44
必要なものを用意する	44
PC カードをセットする	45
PC カードを取り出す	46
3 メモリを増やす	48
必要なものを用意する	48
メモリを取り付ける／取り外す	49
4 携帯電話や PHS を接続する	56
携帯電話／PHS で通信をするときの注意	56
USB コネクタ／PDC コネクタに接続する	57
携帯電話や PHS 用のモデムを選択する	59
5 マウス／テンキーボードを使う	60
PS/2 マウスの接続	60
USB マウスの接続	61
テンキーボードの接続	62
6 プリンタを接続する	63
必要なものを用意する	63
プリンタを接続する	64
プリンタを使うときの注意	65
7 外部ディスプレイを接続する	66
必要なものを用意する	66
外部ディスプレイを接続する	66
ディスプレイの表示を切り替える	68
外部ディスプレイの解像度と発色数について	71
リフレッシュレートを変更する	72
マルチモニタ機能を使う	74

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	78
2 BIOS セットアップの操作のしかた	79
BIOS セットアップを起動する	79
設定を変更する	80
各キーの役割	81
変更内容を取り消す	82
BIOS セットアップを終了する	83
3 ご購入時の設定に戻す	84
4 メニュー詳細	85
メインメニュー	85
詳細メニュー	86
セキュリティメニュー	88
省電力メニュー	90
起動メニュー	92
情報メニュー	92
終了メニュー	93
5 BIOS のパスワード機能を使う	94
パスワードの種類	94
パスワードを設定する	94
パスワードを変更する／削除する	96
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	97
メッセージが表示されたときは	97
メッセージ一覧	98

第4章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	104
パソコン本体のお手入れ	104
フロッピーディスクドライブのお手入れ	104
廃棄について	105
2 Save To Disk 領域	106
Save To Disk 領域について	106
Save To Disk 領域の容量	106
Save To Disk 領域を変更する	107
3 省電力の設定	110
ご購入時の節電の設定	110
「電源の管理」で設定を変更する	110
PMSet98 で設定を変更する	112
4 外部ディスプレイの走査周波数	114
外部ディスプレイ表示のみの場合	114
同時表示の場合	115
5 音量の設定について	116
再生時の音量設定	116
録音時の音量設定	117
索引	118

第1章

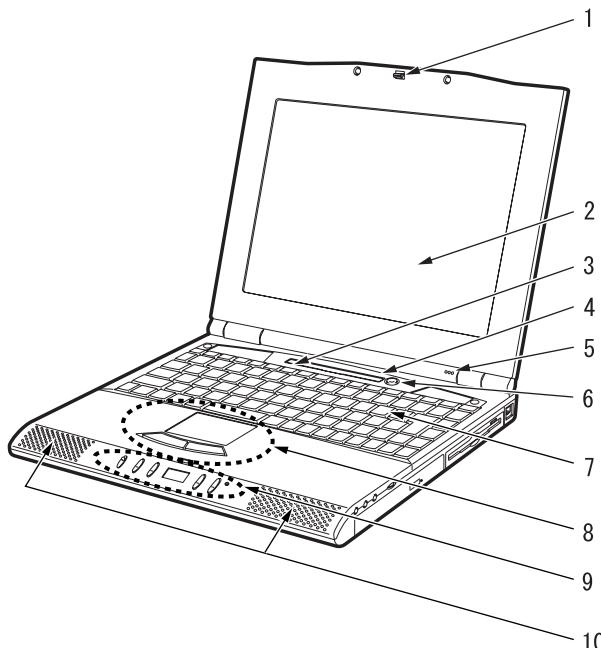
はじめに

各部の名称と働きや省電力機能など、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示 LCDについて	16
3 キーボードについて	18
4 スタンバイ／休止状態について	21
5 バッテリについて	28
6 液晶ディスプレイの明るさを変更する	35
7 画面の解像度と発色数について	36

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、上方向に引いてロックを外します。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・本パソコンのTFTカラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に144万個以上（解像度800×600の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。
また、液晶ディスプレイの特質上、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

3 状態表示 LCD (エルシーディー)

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LCDについて」(⇒ P.16)

4 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、本パソコンをスタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」(⇒ P.21)

5 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音できます。

 **POINT**

- ▶ カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調節するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していない場合は、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

6 SUS/RES (サスレス) スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させるためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」(⇒ P.21)

7 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「キーボードについて」(⇒ P.18)

8 フラットポイント

マウスポインタを操作します。

 **POINT**

- ▶ フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいだ手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

9 ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、新着 E メールを受信したりするボタンです。

また、音楽 CD を再生することもできます。

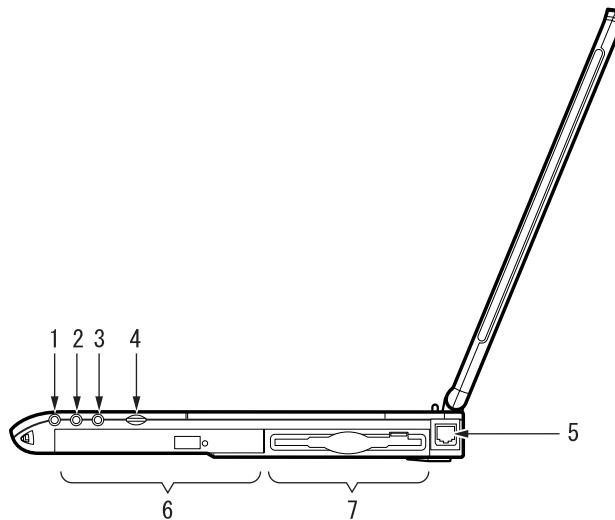
 **POINT**

- ▶ ワンタッチボタンを使用する場合は、MAIN スイッチを OFF にしないでください。
- ▶ ワンタッチボタンの設定は変更できます。□△ボタンを押すと EJECT 機能（取り出し機能）が働くように設定を変更した場合は、CD の使用中に□△ボタンを押さないでください。エラー画面が表示されることがあります。

10 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

パソコン本体右側面



⚠ 注意

聴力障害



- 接続した機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
ヘッドホン・ジャック、ラインイン・ジャック、マイクイン・ジャックに接続するときは、パソコン本体の音量ボリュームを最小にしてから、接続してください。

1 ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意

聴力障害



聴力障害



- ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2 ラインイン・ジャック

AV 機器などの出力（LINE OUT）端子を接続するためのアナログ入力（LINE IN）端子です（外径 3.5mm のステレオミニプラグに対応）。

3 マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

4 音量ボリューム

音量を調節します。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで [Fn] を押しながら [F3] を押してください。また、「マスタ音量」ダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

音声入出力時のバランスや音量などは、「マスタ音量」ダイアログボックスで設定できます。音量ボリュームを最大にしても音量が不足する場合は、「マスタ音量」ダイアログボックスで調整してください。

「音量の設定について」 (☞ P.116)

5 モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

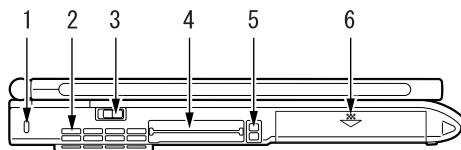
6 CD（シーディー）ドライブ

CD-ROM のデータを読み出したり、音楽 CD を再生します。

7 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクのデータを読み書きします。

パソコン本体左側面



1 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号：0522010

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

2 空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。パソコン本体内部の温度が高くなると、回転します。

△ 注意

故障

- 空冷用ファンの穴はふさがないでください。

パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

3 MAIN（メイン）スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

4 PC（ピーシー）カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。下段がスロット 1、上段がスロット 2 です。

「PC カードをセットする」(⇒ P.45)

POINT

- ▶ 別売の OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

5 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

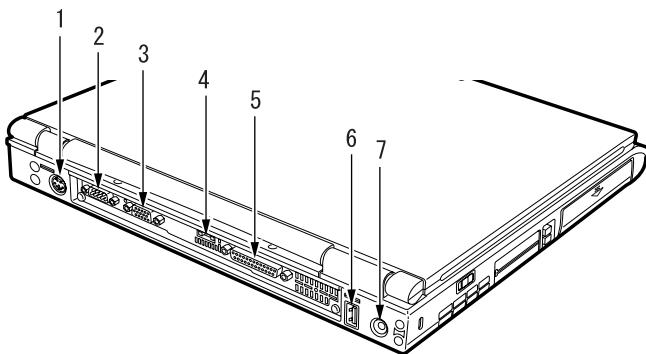
「PC カードを取り出す」(⇒ P.46)

6 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

「内蔵バッテリパックを交換する」(⇒ P.33)

パソコン本体背面



1 拡張キーボード／マウスコネクタ

別売のテンキー／マウスを接続するためのコネクタです。

「マウス／テンキー／マウスを使う」(⇒ P.60)

2 シリアルコネクタ

RS-232C（アールエス 232 シー）規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

3 外部ディスプレイコネクタ

別売の CRT（シーアールティー）ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「外部ディスプレイを接続する」(⇒ P.66)。

4 PDC（ピーディーシー）コネクタ

携帯電話と接続するためのコネクタです。

「携帯電話や PHS を接続する」(⇒ P.56)

5 パラレルコネクタ

別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。

「プリンタを接続する」(⇒ P.63)

6 USB（ユースピー）コネクタ

USB マウス (⇒ P.61) など、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

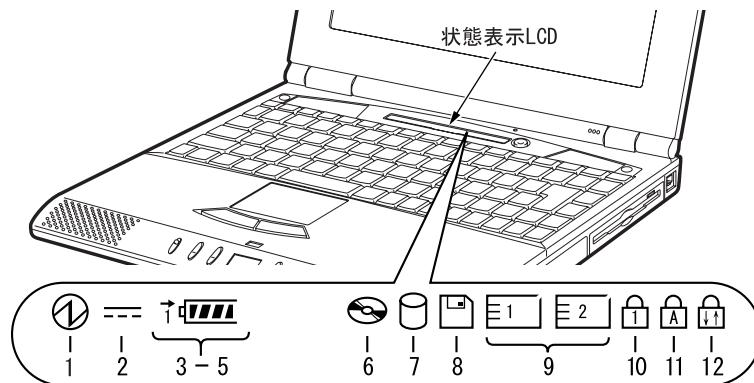
7 DC-IN（ディーシーイン）コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

※ 重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

2 状態表示 LCDについて



1 SUS/RES (サスレス) 表示 (①)

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイ状態 (☞P.22) のときに点滅します。

2 AC (エーシー) アダプタ表示 (==)

ACアダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 バッテリ装着表示 (1、□)

バッテリが取り付けられているときに点灯します。

4 バッテリ充電表示 (→)

バッテリが充電しているときに点灯します。また、バッテリが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。

「充電する」 (☞P.28)

5 バッテリ残量表示 (■■■■)

バッテリの残量を表示します。

「残量を確認する」 (☞P.30)

6 CD アクセス表示 (○)

CDにアクセスしているときに点灯します。次ページのPOINTもご覧ください。

7 ハードディスクアクセス表示 (□)

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。次ページのPOINTもご覧ください。

8 フロッピーディスクアクセス表示 (□)

フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。次ページのPOINTもご覧ください。

9 PC カードアクセス表示 (E1、E2)

PCカードにアクセスしているときに点灯します。次ページのPOINTもご覧ください。

10 Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 (□)

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。

[Num Lk] を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「テンキーモードについて」 (…▶ P.20)

11 Caps Lock (キャップスロック) 表示 (Ⓐ)

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

[Shift] を押しながら **[CapsLock 基数]** を押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

12 Scroll Lock (スクロールロック) 表示 (⬆)

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

[Fn] を押しながら **[Scr Lk]** を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

表示中の動作は、アプリケーションに依存します。

 **POINT**

- ▶ ハードディスクアクセス表示やフロッピーディスクアクセス表示が点灯中に、MAINスイッチを OFF にしたり SUS/RES スイッチを操作すると、ハードディスクやフロッピーディスクのデータが壊れるおそれがあります。
 - ▶ MAINスイッチが OFF の場合は、充電中を除いて状態表示LCDの全表示が消灯します。
 - ▶ PCカードアクセス表示は、別売のOSによっては「スロット1」を「スロット0」、「スロット2」を「スロット1」に読み替える場合があります。
 - ▶ CDの自動挿入が有効になっていると、定期的にCDの有無の検出が行われます。そのため、状態表示LCDのCDアクセス表示が定期的に点灯します。自動挿入を無効にするには、次のように操作してください。
 - 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 - 2  (システム) をクリックします。
 - 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。
CD-ROMデバイスが表示されます。
 - 5 CD-ROMデバイスをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「CD-ROMデバイスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 6 「設定」タブをクリックします。
 - 7 「オプション」の「挿入の自動通知」をクリックし、にします。
 - 8 「OK」をクリックします。
 - 9 「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「OK」または「閉じる」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。
 - 10 本パソコンを再起動します。
- 自動挿入を有効に戻すときは、手順7で「挿入の自動通知」をクリックし、にしてください。

3 キーボードについて

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。
ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



1 Esc (エスケープ) キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

2 ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられます。

3 Num Lk (Num Lock (ニューメリカルロック)) キー

[Num Lk] を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

「テンキーモードについて」 (☞ P.20)

4 Insert (インサート) キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

4 Prt Sc (Print Screen (プリントスクリーン)) キー

表示されている画面を画像データにするときに使います。**[Fn]** を押しながら **[Prt Sc]** を押します。

[Alt] と **[Fn]** を押しながら **[Prt Sc]** を押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト（「ペイント」など）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」を選ぶことなどで編集、保存、印刷ができます。

5 Delete (デリート) キー

カーソルの右側にある 1 文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Delete]** を押すと、応答しなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動できます。

6 Back Space (バックスペース) キー

カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。

7 半角／全角キー

文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。

8 Caps Lock (キャップスロック) 英数キー

[Shift] を押しながら **[CapsLock 英数]** を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。

9 Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]** を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

10 Home (ホーム) キー

カーソルを行の最初に移動します。

[Ctrl] を押しながら **[Home]** を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

11 Pg Up (Page Up (ページアップ)) キー

前のページに切り替えるときに使います。

12 Enter (エンター) キー

入力した文字を確定するときなどに使います。

ワープロソフトなどでこのキーを押すと改行が入力されるため、リターン（改行）キーともいいます。

13 Pg Dn (Page Down (ページダウン)) キー

次のページに切り替えるときに使います。

14 End (エンド) キー

カーソルを行の最後に移動します。

[Ctrl] を押しながら **[End]** を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

15 カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

16 Fn (エフエヌ) キー

本パソコン独自の機能で、以下のように他のキーと組み合わせて使います。

- ・ **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。
- ・ BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」(⇒P.87) の項目が「手動」に設定されているときに **[Fn]** を押しながら **[F4]** を押すと、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
「フラットポイントを無効にするには」(⇒P.61)
- ・ 640 × 480 ドットの解像度のときに **[Fn]** を押しながら **[F5]** を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
- ・ **[Fn]** を押しながら **[F6]** を押すごとに、8 段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- ・ **[Fn]** を押しながら **[F7]** を押すごとに、8 段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(⇒P.35)
- ・ 外部ディスプレイを接続したときに **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押すと、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。

17 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。

18 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

19 Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。

20 Application (アプリケーション) キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

フラットポイントの右ボタンの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Num Lk]** を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示 LCD に  が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

4 スタンバイ／休止状態について

スタンバイと休止状態

スタンバイとは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させることです。

休止状態とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切ることです。

これらの機能を利用すると、パソコンを使用中でも、メモリ内のプログラムやデータをそのままの状態で保持したまま、本パソコンの節電が行えます。

POINT

- ▶ スタンバイと休止状態の違いは以下のとおりです。

- スタンバイ
 - ・ メモリ内のプログラムやデータは、システム RAM（メモリ）で保持されます。スタンバイ中は、状態表示 LCD の ① が点滅します。
 - ・ スタンバイ中はわずかに電力を消費します。電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、AC アダプタを接続していない場合はバッテリから供給されます。
 - ・ 「休止状態」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が短くなります。
- 休止状態
 - ・ メモリ内のプログラムやデータは、ハードディスクの Save To Disk 領域（[P.106](#)）に書き込まれて保存されます。保存が完了すると、パソコン本体の電源が自動的に切れます。ただし、MAIN スイッチが ON（I 側にスライドしている）の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF（O 側にスライドしている）の状態にしてください。
 - ・ 電源が自動的に切れるため、「スタンバイ」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が長くなります。

スタンバイする

☞ 重要

- ▶ バッテリでのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電にした状態で、約1日です。スタンバイしているときにバッテリが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。
- ▶ 長時間のスタンバイは行わないでください。本パソコンを長時間お使いにならない場合には、データを保存してからOSを終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- ▶ スタンバイ中に、MAINスイッチをOFFにしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- ▶ 以下の場合は、スタンバイしないでください。
 - ・ OSの起動中または終了処理中
 - ・ プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ・ ハードディスクやフロッピーディスクにアクセス中
 - ・ モデムで通信中
 - ・ LANカードなどでネットワークに接続中
 - ・ ビデオCDやMPEGファイルを再生中
 - ・ 音楽CDやゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ 接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な機器のみ）

作業を一時停止する（スタンバイ）

スタンバイするには、SUS/RESスイッチを使う方法、液晶ディスプレイを閉じる方法および「Windowsの終了」ダイアログボックスを使う方法があります。

○ POINT

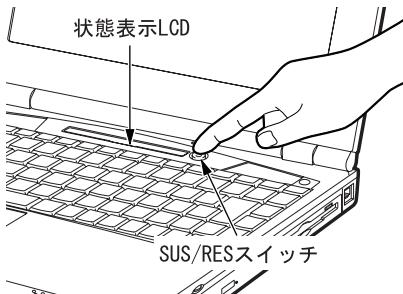
- ▶ 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、本パソコンはスタンバイしないことがあります。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイに時間がかかる場合があります。
- ▶ お使いになるPCカードによっては、バッテリでのスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。
- ▶ ご購入時の設定では、節電のため、本パソコンをバッテリで動作させているときに約15分間使用されなかった場合、自動的にスタンバイするように設定されています。この設定は変更できます。
「設定を変更する」(…▶P.110)

■ SUS/RES スイッチを使う

1 状態表示 LCD(⇒P.11)に や などが点灯していないことを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示 LCD の が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。

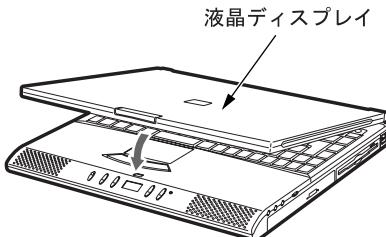


○ 重要

- ▶ SUS/RES スイッチは4秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

■ 液晶ディスプレイを閉じる

1 状態表示 LCD (⇒P.11) の や などが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



○ POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「なし」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイしないように設定できます。ご購入時は「スタンバイ」に設定されています。

「設定を変更する」(⇒ P.110)

■ 「Windows の終了」ダイアログボックスを使う

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 「スタンバイ」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

作業を再開する（レジューム）

一時停止するパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

レジュームするには、SUS/RES スイッチを使う方法と液晶ディスプレイを開く方法があります。

重要

- ▶ スタンバイした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。
- ▶ SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作業中のデータが失われることがあります。

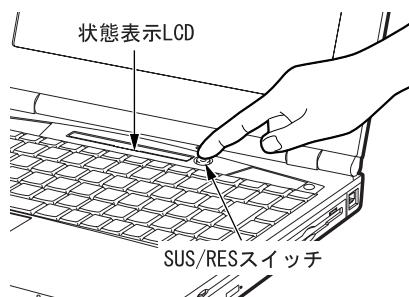
POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。

■ 液晶ディスプレイが開いているとき

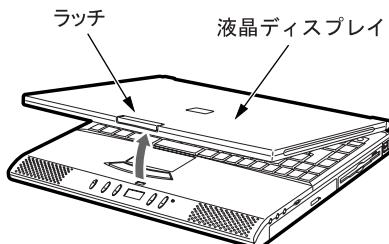
1 状態表示 LCD の ① が点滅していることを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。



■ 液晶ディスプレイが閉じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。



POINT

- ▶ SUS/RES スイッチまたは「Windows の終了」ダイアログボックスでスタンバイした場合は、液晶ディスプレイを開いてもレジュームしません。

■ モデム着信によるレジューム

通信アプリケーションによっては、通信アプリケーションを起動したままスタンバイしておくと、モデムへの着信によって自動的にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 内蔵モデムに着信すると「モデム着信によるレジューム」機能の設定の有無に関わらず、常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーケーブルをモジュラーコネクタから抜いておいてください。
- ▶ モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。フラットポイント（マウス）を操作すると画面が表示されます。フラットポイントを操作しても画面が表示されない場合は [] などのキーを押してください。この操作をしても画面が表示されない場合は、状態表示 LCD の ① が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはスタンバイになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームしてください。

休止状態にする

休止状態にするには、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで次のように設定をしてください。

- 「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックし、にする（ご購入時に設定されています）。
- 「詳細」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「休止状態」にする（ご購入時は「スタンバイ」に設定されています）。

重要

- ▶ PC カードやプリンタなどの機器を接続した状態で休止状態になると、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ▶ 以下の場合は、休止状態にしないでください。
 - ・OS の起動中または終了処理中
 - ・プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ・ハードディスク、フロッピーディスクにアクセス中
 - ・モデムで通信中
 - ・LAN カードなどでネットワークに接続中
 - ・ビデオ CD や MPEG ファイルを再生中
 - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な周辺機器のみ）

作業を一時停止する（休止状態）

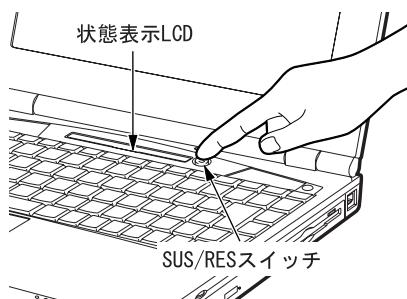
重要

- ▶ MAIN スイッチが ON の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF の状態にしてください。

■ SUS/RES スイッチを使う

- 1 状態表示 LCD (☞ P.11) に  や  が点灯していないことを確認します。
- 2 SUS/RES スイッチを押します。

ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



■ 液晶ディスプレイを閉じる

- 1** 状態表示 LCD (⇒ P.11) に  や  が点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
しばらくすると、電源が切れます。

POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスに「休止状態」タブが表示されない場合は、Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。
「Save To Disk 領域」(⇒ P.106)
ご購入時には、Save To Disk 領域が作成されています。

作業を再開する（レジューム）

重要

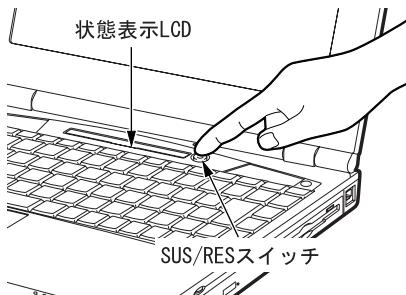
- ▶ 休止状態にした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。

POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。
- ▶ 休止状態にした場合、モデム着信によるレジューム (⇒ P.25) はできません。

- 1** MAIN スイッチが OFF の状態のときは、MAIN スイッチを ON の状態にします。
- 2** SUS/RES スイッチを押します。

保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



5 バッテリについて

本パソコンは、携帯での使用を考慮して、ACアダプタの他にバッテリからも電源を供給することができます。

充電する

1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、状態表示LCDにバッテリ充電表示( の )と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、ACアダプタを取り外します。

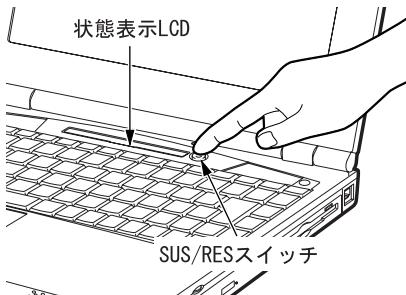
POINT

- ▶ 充電時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリの充電は、バッテリ充電表示()が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅()から点灯()に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ MAINスイッチをOFFにしている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示LCDの表示が消えます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります( が点滅します)。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリで使う

ここでは、バッテリでの運用について説明します。

1 ACアダプタを取り外し、SUS/RESスイッチを押します。



POINT

- ▶ MAINスイッチをOFFしている場合は、MAINスイッチをONにしてください。
- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリ稼動時間は短くなります。
- ▶ バッテリ稼動時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示LCDのバッテリ残量表示で確認できます。

バッテリの残量表示

-  約100%～約76%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約75%～約51%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約50%～約26%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約25%～約13%のバッテリ残量を示します（充電中は、0%～約25%のバッテリ残量を示します）。
-  LOWバッテリ状態（約12%以下のバッテリ残量）を示します。■が点滅します。
↓
-  バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

POINT

- ▶ バッテリ残量表示（）は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

バッテリの異常表示

-  バッテリが正しく充電できることを示します。

POINT

- ▶ が表示される場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
「内蔵バッテリパックを交換する」（[P.33](#)）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリが LOW バッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

LOW バッテリ状態の表示

状態表示 LCD のバッテリ残量表示が点滅します（）。

LOW バッテリ状態の対処

1 SUS/RES スイッチを押します。

LOW バッテリ状態になったらすみやかに SUS/RES スイッチを押してスタンバイ（一時停止）させます。作業中にスタンバイしてもプログラムやデータは消えません。
「スタンバイする」（ P.22）

2 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続するとバッテリが充電されます。

POINT

- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使用します。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してお使いください。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、最悪の場合、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、SUS/RES スイッチを押して本パソコンをリジュームさせてから、本パソコンの電源を切ってください。

3 SUS/RES スイッチを押します。

本パソコンがリジュームし、作業を再開できます。

注意

- ▶ 本パソコンは、バッテリ残量が 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブでは「バッテリ切れアラーム」の次の項目の設定を変更しないでください。
 - ・「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
 - ・「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの次の項目
 - ・「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」
 - ・「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」
- これらの項目をクリックして にした状態で使用すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

バッテリの注意

⚠ 警告



- バッテリは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

● 放電について

- バッテリは、充電後にお使いにならなくとも、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間（約1ヵ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

● 寿命について

- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。
- バッテリ稼動時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。

● 廃棄について

バッテリを廃棄する場合は、バッテリがショートしないようバッテリ端子をテープなどで絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

● バッテリ稼動時間を長くするには

省電力機能を使用します。

「省電力の設定」(…▶ P.110)

● バッテリ稼動時間が短くなる場合について

- バッテリ稼動時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼動時間が短くなる場合があります。
- バッテリは、長期間使用していると充電容量が低下し、充電能力が落ちてきます。その場合は新しいバッテリと交換してください。

● 次のような場合はACアダプタを使用してください

- パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ハードディスクやCDなどを頻繁に使用するとき
- LANカードを使用するとき
- パソコンをご購入時の状態に戻すとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリパックの交換について説明します。

⚠ 警告

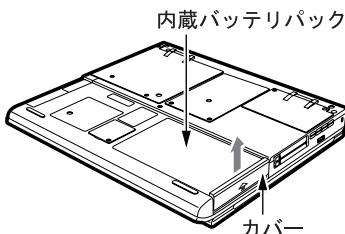


- 内蔵バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

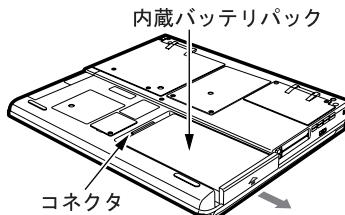
POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリパックは、以下の製品をお買い求めください。
商品名：Li-ion バッテリパック FM-22
商品番号：0643790
(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

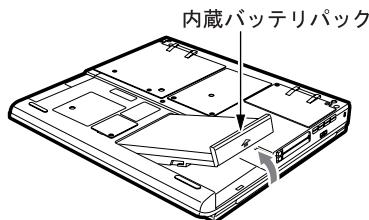
- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリパックのカバーを上にスライドします。



- 4 内蔵バッテリパックをスライドします。
内蔵バッテリパックが、コネクタから外れます。

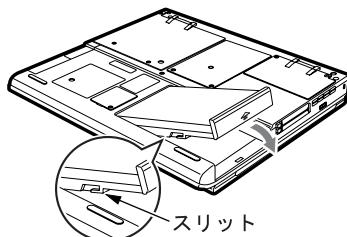


5 内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げながら取り外します。



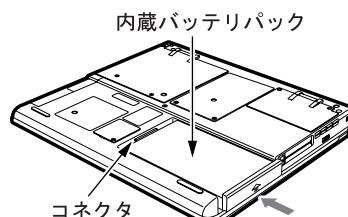
6 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットを合わせます。

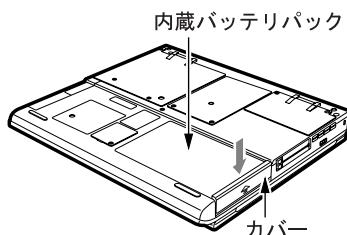


7 内蔵バッテリパックをスライドします。

コネクタが、内蔵バッテリパックとしっかりと接続するようにスライドしてください。



8 内蔵バッテリパックのカバーを下にスライドします。



6 液晶ディスプレイの明るさを変更する

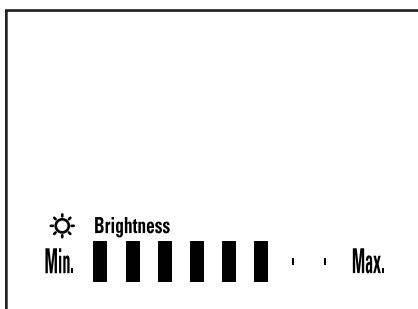
液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。

明るさを設定する

「PMSet98」の「電源依存」タブの「LCD バックライト」で設定できます。AC アダプタで使っているときと、バッテリで使っているときの明るさを、それぞれ設定できます。設定のしかたについては、「省電力の設定」(⇒ P.110) をご覧ください。

設定した明るさを変更する

キーボードを使用すれば、本パソコンを使用中でも上記の設定に関係なく、明るさを8段階に調節できます。[Fn] を押しながら [F6] で暗く、[F7] で明るくなります。調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。



POINT

- ▶ 本パソコンを再起動したり、スタンバイからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。
- ▶ PMSet98 を終了している場合は、明るさを示すインジケータが表示されません。

7 画面の解像度と発色数について

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

解像度	発色数
640 × 480 ドット※1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) ※2 ※3
800 × 600 ドット	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) ※2
1024 × 768 ドット※4	256 色 High Color (16 ビット)
1280 × 1024 ドット※4	256 色

※1 640 × 480 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

※2 ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

※3 色数を True Color (32 ビット) に設定した場合、以下の操作による液晶ディスプレイの全画面表示は使用できません。

- ・ [Fn] を押しながら [F5] を押す
 - ・「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「フラットパネル」タブの「ディスプレイストレッチ」を にする。
- ※4 仮想スクリーンモードでの表示となります。1024 × 768 ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイには 800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

POINT

- ▶ ご購入時の解像度と発色数は次のとおりです。
800 × 600 ドット、High Color (16 ビット)
- ▶ High Color (16 ビット) は 65536 色、True Color (32 ビット) は 1677 万色です。
- ▶ 別売の外部ディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイの解像度と発色数について」(☞ P.71) をご覧ください。
- ▶ 設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ▶ アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。

解像度や発色数を変更する

重 要

- ▶ アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。
 - 1 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。
 解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。
- ▶ 解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

- 1** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 設定する項目に合わせて手順 4 または手順 15 (⇒ P.38) へ進みます。
 - ・ 解像度を 800×600 ドット以下に設定する場合…手順 15 (⇒ P.38)
 - ・ 解像度を 1024×768 ドット以上に設定する場合…手順 4
 - ・ 発色数を変更する場合…手順 15 (⇒ P.38)

POINT

- ▶ 手順4～14の操作をして解像度を変更したことがある場合、2回目以降は手順15へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 4 へ進んでください。

- 4** 「詳細」をクリックします。
- 5** 「モニタ」タブをクリックします。
- 6** 「変更」をクリックします。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「特定の場所にあるすべてのドライバの……」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

9 「すべてのハードウェアを表示」をクリックし、にします。

10 以下のように選びます。

製造元：「(標準モニタの種類)」

モデル：「Super VGA 1280 × 1024」

11 「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というダイアログボックスが表示されます。

12 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というダイアログボックスが表示されます。

13 「完了」をクリックします。

14 「閉じる」をクリックします。

POINT

▶ 「リフレッシュレート」ダイアログボックスが表示された場合は、次の操作をしてください。

1 「OK」をクリックします。

2 メッセージが表示されるので、「はい」をクリックし、手順 15 へ進みます。

15 発色数や解像度を変更します。



(画面は機種や状況により異なります)

16 「OK」をクリックします。

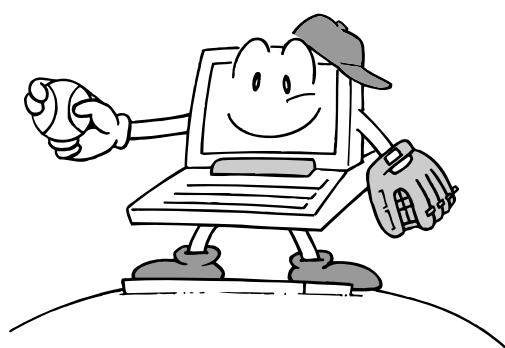
設定を確認するダイアログボックスが表示されます。表示されない場合は、自動的に設定が変更されます。

17 「OK」または「はい」をクリックします。

ダイアログボックスが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。画面の設定が変更されます。

 **POINT**

- ▶ 「互換性の警告」ダイアログボックスが表示された場合は、「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。



第2章

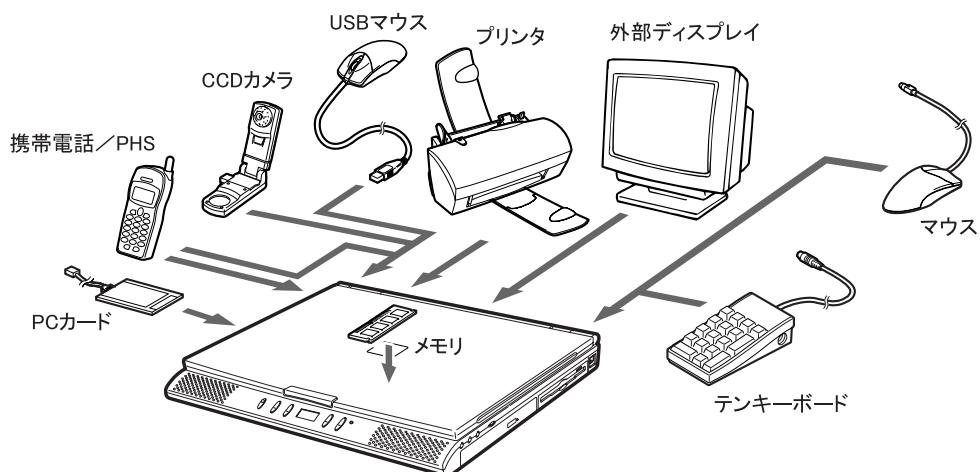
ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いなどをお説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	42
2 PC カードを使う	44
3 メモリを増やす	48
4 携帯電話や PHS を接続する	56
5 マウス／テンキーボードを使う	60
6 プリンタを接続する	63
7 外部ディスプレイを接続する	66

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



周辺機器について

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

●周辺機器によっては設定作業が必要です

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。

●周辺機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

●純正品をお使いください

弊社純正のオプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX情報サービスをご利用ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

●ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

●取り付け／取り外し時の注意

PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

Windows98のセットアップについては、□『取扱説明書』をご覧ください。

POINT

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 PC カードを使う

PC カードを使うときの注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- カードをこすったりして静電気をおこさないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかかるないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ▶ 代表的な PC カードには次のようなものがあります。
 - SCSI (スカジー) カード
SCSI 規格対応のハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
 - LAN (ラン) カード
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
 - デジタル携帯電話接続カード／PHS 接続カード
デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。
- ▶ LAN カードやモデムカードなど、通信系の PC カードの中には、2 枚同時には使用できないものがあります。PC カードに添付のマニュアルで確認してください。
- ▶ 本パソコンでは、12V を使用する PC カードはサポートしていません。

必要なものを用意する

PC カード	PC Card Standard に対応した TYPE I (厚さ 3mm)、TYPE II (厚さ 5mm)、および TYPE III (厚さ 10.5mm) の PC カードが使えます。
PC カードのドライバ	PC カードによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。
PC カードのマニュアル	PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PC カードをセットする

PC カードは、名刺サイズのカードにモデムなどの周辺機器機能をもたせたカードです。ここでは、PC カードのセットについて説明します。

⚠ 注意



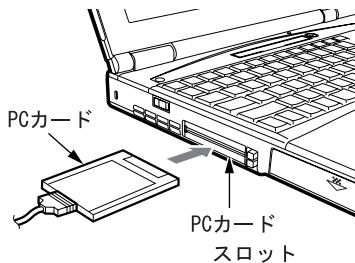
- PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

POINT

- ▶ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

1 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



2 初めてセットした PC カードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクや CD を使うことがあります。

POINT

- ▶ PC カードのドライバを削除するときは、PC カードのマニュアルをご覧ください。PC カードのマニュアルに記載がない場合は、次の手順でドライバを削除してください。
 - 1 PC カードをセットします。
 - 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 - 3 (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 4 削除したいデバイスをクリックし、「削除」をクリックします。
 - 5 削除を確認するダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。
 - 6 再起動を確認するダイアログボックスが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
 - 7 「スタート」ボタン→「Windows の終了」をクリックし、Windows98 を終了します。
 - 8 PC カードを取り出します。
 「PC カードを取り出す」の手順 4 ~ 6 (⇒ P.47)
- ▶ PC カードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、PC カードの取り出しかたについて説明します。

POINT

- ▶ コード付きの PC カードを取り出す場合、PC カードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



1 タスクバーの (PC カード) をクリックします。

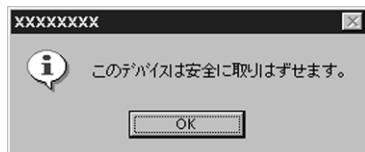
POINT

- ▶ タスクバーの (PC カード) をダブルクリックしたり、コントロールパネルの (PC カード) をクリックして表示される「PC カード (PCMCIA) のプロパティ」ダイアログボックスで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXXX の中止」をクリックします。

XXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。



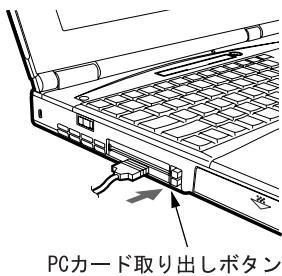
POINT

- ▶ PC カードによっては、「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、パソコン本体の電源を切ってから手順 4 へ進んでください。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カード取り出しボタンを押します。

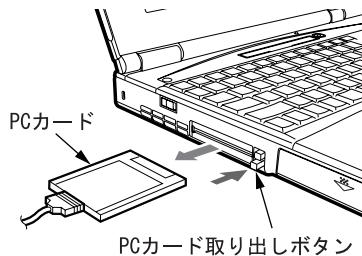
PC カード取り出しボタンが飛び出します。



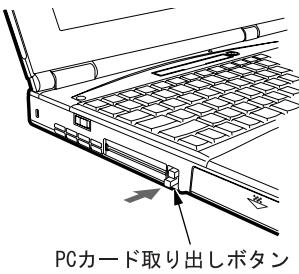
PCカード取り出しボタン

5 PC カードを取り出します。

PC カード取り出しボタンを押し、飛び出した PC カードを引き抜きます。



PCカード取り出しボタン

6 PC カード取り出しボタンを押し込みます。

PCカード取り出しボタン

3 メモリを増やす

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

POINT

- ▶ 本パソコンのご購入時のメモリ容量は 64MB です。メモリを取り付けることで、最大 192MB まで増やすことができます。

必要なものを用意する

メモリ (拡張 RAM (ラム) モジュール)	FMVNM64SD (64MB)、FMVNM12SD (128MB) のメモリ のうち、1枚取り付けられます。
プラスのドライバー (ドライバーサイズ : 1 番)	本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭 をつぶさないように、ネジのサイズ (M2.5) に合ったもの をお使いください。 他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあ ります。
針や安全ピンなどの 先のとがったもの	本パソコンのネジカバーを取り外すときに使います。

メモリを取り付ける／取り外す

ここでは、メモリの取り付け／取り外しについて説明します。

⚠ 警告

感 電



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

誤 飲



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意

故 障



- メモリの取り付け／取り外しを行うときは、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

故 障



- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故 障



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。スタンバイや休止状態中に行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

POINT

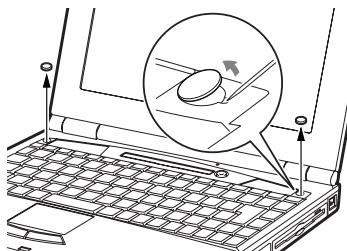
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

メモリを取り付ける

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 ネジカバーを取り外します。

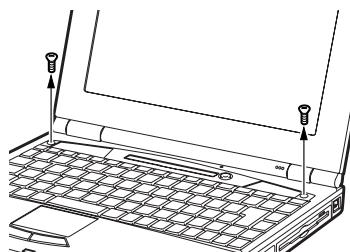
欠けている部分から針などを入れて、カバーを取り外してください。



※ 重要

- ▶ 針や安全ピンなどは、取り扱いに注意してください。けがをすることがあります。

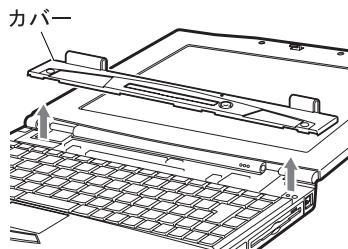
3 キーボードのネジを外します。



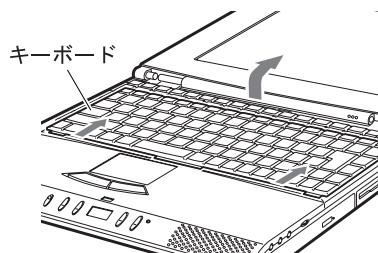
4 パソコン本体下面と水平になるように、液晶ディスプレイを開きます。

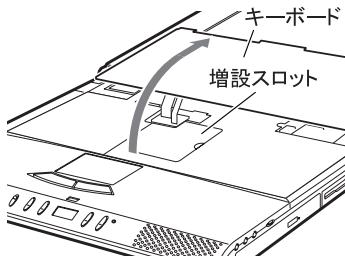


5 カバーを取り外します。

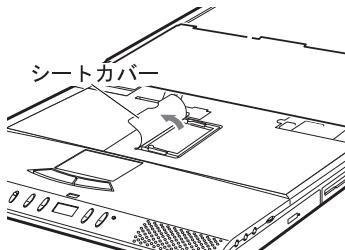


6 キーボードの液晶ディスプレイに近い側を少し持ちあげて矢印の方向にスライドします。

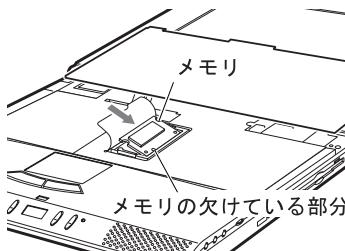


7 キーボードを静かに持ち上げて開きます。**△重要**

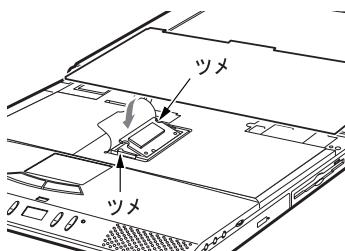
- ▶ キーボードを引っ張らないでください
パソコン本体とキーボードを接続しているケーブルを破損する原因となります。

8 シートカバーをめくります。**9 メモリを斜めに差し込みます。**

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。

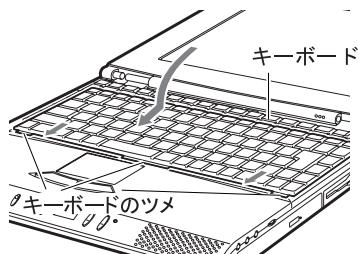
**10 メモリをはめ込みます。**

メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。

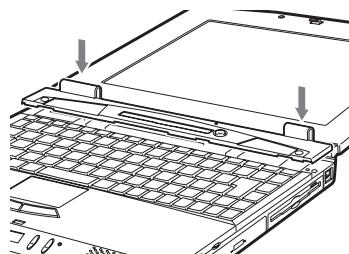


11 キーボードを静かに降ろします。

キーボードのツメとパソコン本体のツメ穴を合わせ、ケーブルをはさまないように閉じます。

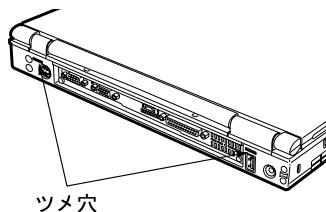


12 カバーのツメをパソコン本体背面のツメ穴に合わせます。

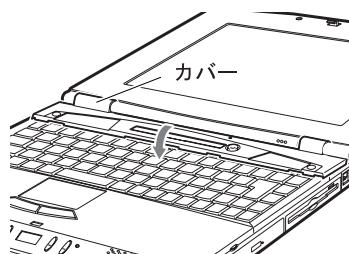


POINT

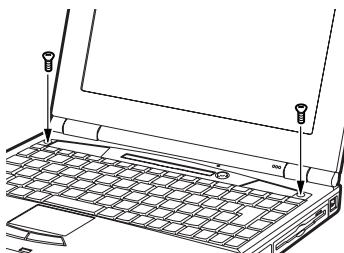
- ▶ ツメ穴



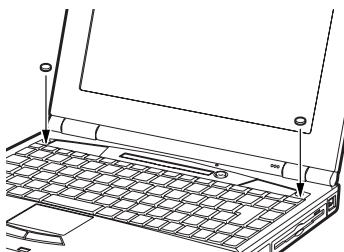
13 カバーを取り付けます。



14 手順 3 で取り外したネジでカバーを固定します。



15 手順 2 で取り外したネジカバーを取り付けます。



☞ 重 要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合はMAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付け後、メモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ○で囲んだ部分の数値が、取り付けたメモリの容量になっているかどうかを確認します。



画面は、64MB のメモリを取り付けた例です。

お使いのシステム構成によっては 1MB 少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウに戻ります。

POINT

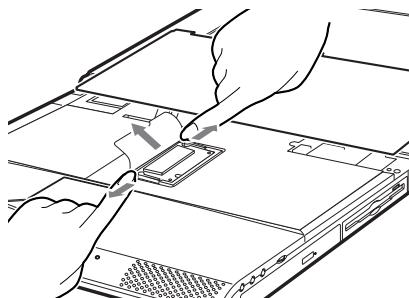
- ▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。
「メモリを取り付ける」(⇒ P.49)

メモリを取り外す

1 キーボードを開きます。

「メモリを取り付ける」手順1～手順8（ P.49）

2 メモリを押さえている両側のツメを開き、メモリを取り外します。



4 携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHS（ピーエイチエス）を接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話／PHSで通信をするときの注意

携帯電話やPHSで通信を行う場合は、次の点に注意してください。

- 携帯電話接続用USBケーブルまたはPHS接続用USBケーブルについては、◎「アプリケーションCD2」の「Fjusb」の中のreadme.txtを必ずお読みください。
- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- USBコネクタまたはPDCコネクタに接続した携帯電話やPHSどうしでの対向接続はできません。
- ATコマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- PHSをケーブルに接続する場合は、Windowsが起動した状態で行ってください。
- 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイや休止状態にはできません。
- 携帯電話接続用USBケーブルまたはPHS接続用USBケーブルでの通信後にスタンバイできない場合があります。この場合は、パソコン本体からケーブルを取り外してからスタンバイしてください。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。この場合、携帯電話やPHSでの通信が切断されていても、通信アプリケーションの通信が切断されていないことがあります。このようなときは、いったん通信アプリケーションでの通信を終了してから、もう一度通信を行ってください。
- 携帯電話接続用USBケーブルで通信中にMicrosoft® NetMeetingを使用すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- 携帯電話接続用USBケーブルをNTT DoCoMo Doccimoに接続してお使いになる場合、Doccimoのモードを携帯電話からPHS、またはPHSから携帯電話に変更するときは、いつも携帯電話から接続ケーブルを取り外し、再度接続してください。
「携帯電話やPHS用のモデムを選択する」(…▶P.59)
- 携帯電話接続用USBケーブルで、大容量のファイルやメールの送受信を同時に複数行うと、途中でデータの送受信が止まってしまうことがあります。この場合は、1つずつ送受信を行ってください。

USB コネクタ／PDC コネクタに接続する

ここでは、接続ケーブル経由で本パソコンと携帯電話や PHS を接続する方法を説明します。

必要なものを用意する

デジタル携帯電話または PIAFS（ピアフ）対応の PHS	お使いになれる機種については、「富士通パソコンホームページ FM WORLD」(http://www.fmworld.net) にてご案内します。
携帯電話接続用 USB ケーブル	デジタル携帯電話と本パソコンを接続します。 別売の FMV-CBL101 をお使いください。
PHS 接続用 USB ケーブル	PHS と本パソコンを接続します。 別売の FMV-CBL102 をお使いください。
携帯電話接続ケーブル	デジタル携帯電話と本パソコンを接続します。 別売の FMV-NCBL92 をお使いください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、デジタル携帯電話接続カード、および PHS 接続カードをセットすることもできます。接続カードについては、接続カードのマニュアルをご覧ください。
- ▶ PIAFS（ピアフ）

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線（32/64Kbps）を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS に対応している必要があります。

携帯電話や PHS を接続する

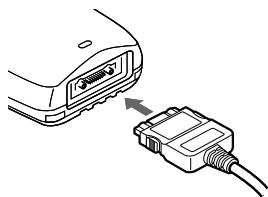
△ 注意



- ケーブルは本書および⑩「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中の readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

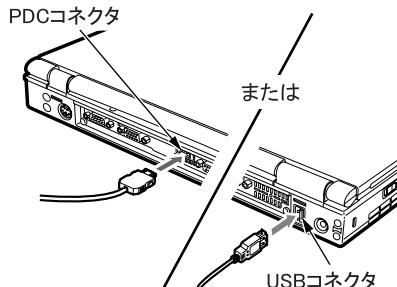
1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



2 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン背面の USB コネクタまたは PDC コネクタに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。

設定方法については、□『インターネットガイド』をご覧ください。

POINT

- ▶ 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101)、または携帯電話接続ケーブル (FMV-NCBL92) を取り外す場合は、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- ▶ PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を取り外す場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話や PHS 用のモデムを選択する

◆ 重 要

- ▶ 携帯電話接続用 USB ケーブルまたは PHS 接続用 USB ケーブルを使用する前に、必ず⑩「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中の readme.txt をお読みください。
- ▶ 本パソコンご購入時には、携帯電話接続用 USB ケーブル、および PHS 接続用 USB ケーブルのドライバは、インストールされていません。必ず⑩「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中のドライバをインストールしてください。
- ▶ 別売のケーブルに⑩「FMV-CBL101／FMV-CBL102用ドライバCD V1.0.01」が添付されている場合がありますが、添付の CD は使用しないでください。

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話または PHS によって異なります。

携帯電話や PHS のマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

● 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を使用する場合

携帯電話／Doccimo のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話 (28800bps、パケット交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯電話モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS モード (32K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS モード (64K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

● PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を使用する場合

PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

● 携帯電話接続ケーブル (FMV-NCBL92) を使用する場合

携帯電話のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT PDC

5 マウス／テンキー／ボードを使う

POINT

- シリアルマウスを接続すると、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。

PS/2 マウスの接続

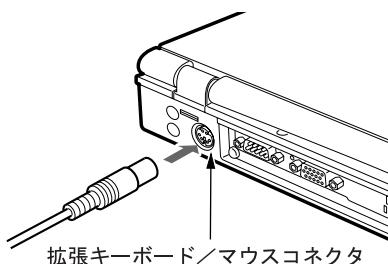
本パソコンは、拡張キーボード／マウスコネクタに、PS/2 規格のマウスを接続することができます。

1 パソコン本体の電源を切るか、スタンバイさせます。

「スタンバイする」(…▶ P.22)

2 マウスを接続します。

マウスを拡張キーボード／マウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が、下側になるように接続してください。



POINT

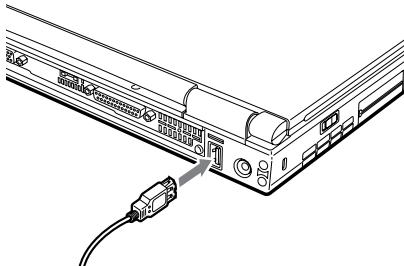
- PS/2 規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。
- フラットポイントと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」(…▶ P.86) で設定します。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(…▶ P.79)
- スクロール機能付マウスを接続している場合は、本パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。

USB マウスの接続

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス（FMV-MO202L）を接続できます。

1 本パソコンの USB コネクタにマウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB マウスを接続してもフラットポイントは無効になりません。フラットポイントを無効にする場合は、「フラットポイントを無効にするには」（…▶ P.61）をご覧ください。
- ▶ MS-DOS モードでは USB マウスは無効です。

フラットポイントを無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントと USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、次のように設定してください。

1 BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（…▶ P.87）の項目を「手動」に設定します。

「BIOS セットアップの操作のしかた」（…▶ P.79）

2 Windows98 が起動したら、[Fn] を押しながら [F4] を押します。

キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。

重要

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

POINT

- ▶ [Fn] を押しながら [F4] を押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、フラットポイントが有効になります。
- ▶ BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「常に使用しない」に設定すると、フラットポイントは常に無効になります。

テンキーボードの接続

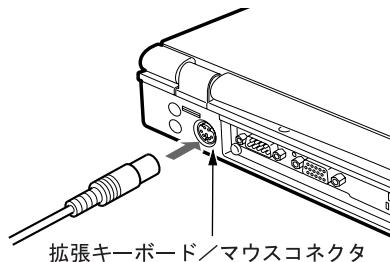
本パソコンは、拡張キーボード／マウスコネクタに、PS/2 規格のテンキーボードなどを接続することができます。ここでは、テンキーボードを接続する場合について説明します。

- 1 パソコン本体の電源を切るか、スタンバイさせます。

「スタンバイする」(☞ P.22)

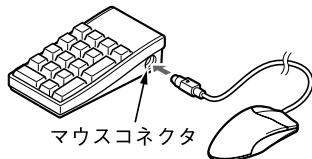
- 2 テンキーボードを接続します。

テンキーボードを拡張キーボード／マウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が下側になるように接続してください。

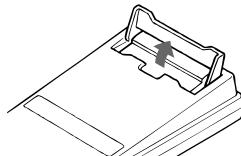


POINT

- ▶ テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。
「テンキーモードについて」(☞ P.20)
- ▶ テンキーボードのマウスコネクタにマウスを接続することができます。



- ▶ テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



- ▶ 拡張キーボードコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。
- ▶ 親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK V5.0 以降が必要です。

6 プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

必要なものを用意する

プリンタ	Windows98 で動作可能なプリンタを用意してください。
プリンタのドライバ	プリンタによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類ある場合は、「Windows98 用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V 用」などと表示されたものをお使いください。
プリンタケーブル	プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。
プリンタのマニュアル	プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CD で見るマニュアルもあります。

プリンタを接続する

ここでは、パソコン本体のパラレルコネクタに、プリンタを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



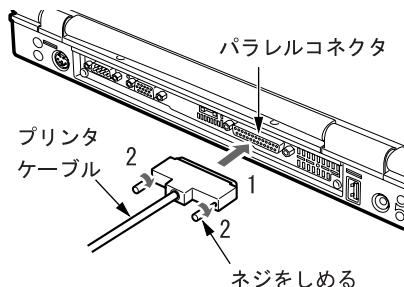
- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み(1)、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定します(2)。



- 3 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。
- 4 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差しこみ、電源を入れます。
- 5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。
- 6 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。
プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。
ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

プリンタを使うときの注意

- プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によってはプリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。その場合は、次の手順でドライバをインストールしてください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックします。

2 「プリンタの追加」をクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。

POINT

- ▶ Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は「OK」をクリックし、次に表示されるダイアログボックスで以下のように入力し、「OK」をクリックしてください。

c:\windows\options\cabs

- ご購入時のCD ドライブはE ドライブです。CDからプリンタドライバをインストールする場合、ドライブ名には「e」と入力してください。

7 外部ディスプレイを接続する

CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。また、マルチモニタ機能を使用することもできます。

必要なものを用意する

外部ディスプレイ	「PC/AT 互換機」または「DOS/V パソコン」対応のものを用意してください。
ディスプレイケーブル	外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。外部ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。 添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」と表示されたもので、外部ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。
外部ディスプレイのマニュアル	外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイを接続する

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意

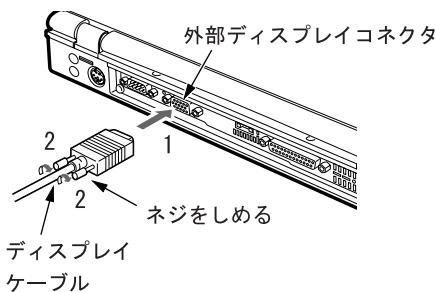


- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1** パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2** パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み(1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します(2)。



- 3** CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4** CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 5** パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(☞ P.68)

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、以下のようになります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示される
 この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続した外部ディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。どちらの方法で切り替えてもかまいません。

POINT

- ▶ ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
 - ・接続した外部ディスプレイで表示する
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイで同時に表示する

キーボードで切り替える

1 を押しながら を押します。

2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

画面のプロパティで切り替える

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「詳細」をクリックします。

4 「表示デバイス」タブをクリックします。

5 表示するディスプレイを選びます。

- 液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示するときは、表示デバイスの「LCD/CRT」をクリックし、にします。
- 液晶ディスプレイのみ、または外部ディスプレイのみで表示するときは、表示デバイスの「LCD」または「CRT」をクリックし、にします。



(画面は機種や状況により異なります)

POINT

- ▶ 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP (W98.26) のプロパティ」ダイアログボックスでは、「外部ディスプレイ」を「CRT」、「液晶ディスプレイ」を「LCD」と表示しています。

6 「適用」をクリックします。**7 表示デバイスが準備されていることを確認するダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。****8 「確認」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。****POINT**

- ▶ 「OK」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順5からやり直してください。

9 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26) のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。**10 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。**

△重要

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。
 - 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押して、表示先を切り替えてください。
 - 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、リフレッシュレートを変更してください。
「リフレッシュレートを変更する」(☞ P.72)
- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、本パソコンの電源を切ったあと、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更した際に、画面が表示できなくなる場合があります。

○POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOS セットアップの「ディスプレイ」(☞ P.87) の項目を「外部ディスプレイ」または「同時表示」に設定してください。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞ P.79)
- ▶ Windows98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
- ▶ マルチモニタ機能については、「マルチモニタ機能を使う」(☞ P.74)をご覧ください。

外部ディスプレイの解像度と発色数について

ここでは、外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。
この解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと 外部ディスプレイで同時表示	外部ディスプレイで表示
640 × 480 ドット	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ドット	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ドット ※4	256 色※3 High Color (16 ビット) ※3	256 色 High Color (16 ビット)
1280 × 1024 ドット ※5	256 色※3	256 色

※1 640 × 480 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

※2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

※3 本パソコンでは仮想スクリーンモードでの表示となります。

1024 × 768 ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに 800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

※4 モニタを SuperVGA 1024 × 768 以上にする必要があります。

「解像度や発色数を変更する」(⇒ P.37)

※5 モニタを SuperVGA 1280 × 1024 以上にする必要があります。

「解像度や発色数を変更する」(⇒ P.37)

重要

- ▶ 表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示では、外部ディスプレイは液晶ディスプレイの表示と同一になりますが、外部ディスプレイによっては正しく表示されないことがあります。外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

POINT

- ▶ High Color (16 ビット) は 65536 色、True Color (32 ビット) は 1677 万色です。

外部ディスプレイの解像度と発色数を変更する

外部ディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「解像度や発色数を変更する」(⇒ P.37) の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- 手順 1 の前に外部ディスプレイ表示に切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ P.68)
- 手順 10 「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というダイアログボックスでは、外部ディスプレイのマニュアルをご覧になり、お使いの外部ディスプレイに合ったモデルを選んでください。合うモデルがないときは、手順 10 の設定に従ってください。

POINT

- ▶ 変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートを変更する

外部ディスプレイに合ったリフレッシュレートに変更すると、画面のちらつきを抑えることができます。

重要

- ▶ リフレッシュレートは、外部ディスプレイ表示のときに変更できます。液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示のときは、「表示デバイス」タブの「ディファレントリフレッシュレート」をクリックして にすると、「アダプタ」タブで外部ディスプレイのリフレッシュレートを変更できます。ただし、解像度によっては変更できない場合もあります。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイにより対応しているリフレッシュレートは異なります。
外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ リフレッシュレート
1 秒間に画面を書き替える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

1 外部ディスプレイ表示に切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ P.68)

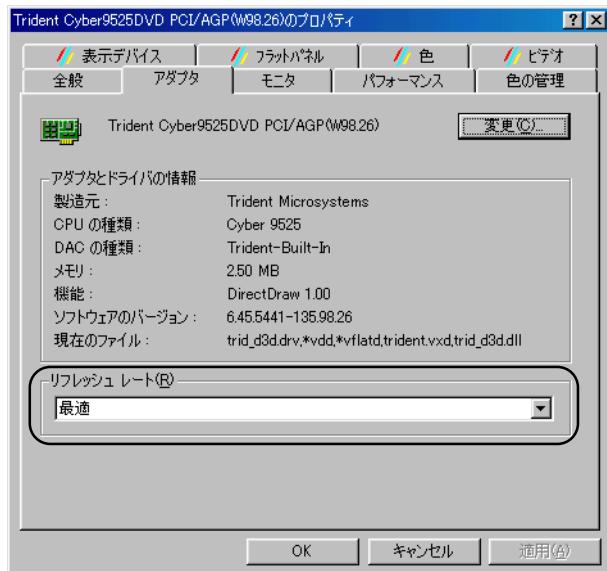
2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 「詳細」をクリックします。

5 「アダプタ」タブをクリックします。

6 「リフレッシュレート」の▼をクリックして、リフレッシュレートを選択し、「適用」をクリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

7 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26)のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、プライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

セカンダリアダプタを設定する

重要

- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ▶ 現在、画面が表示されているディスプレイがプライマリアダプタになります。
ただし同時表示の場合は、液晶ディスプレイがプライマリアダプタになります。
- ▶ 「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。

- 1** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- ▶ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

- 2** 「設定」タブをクリックし、「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。
「モニタ #2」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「はい」をクリックします。
- 4** セカンダリアダプタの解像度と発色数を設定します。
「解像度や発色数を変える」の手順 15 (☞ P.38)

- 5** 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。
設定を確認するダイアログボックスが表示された場合は、「OK」または「はい」をクリックしてください。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1** セカンダリアダプタを設定します。
「セカンダリアダプタを設定する」 (☞ P.74)
- 2** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 3** 「設定」タブをクリックします。

4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

5 「OK」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数

次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度			
		640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
High Color (16 ビット)	640 × 480	○	○	○	×
	800 × 600	○	○	○	×
	1024 × 768	○	○	×	×
True Color (32 ビット)	640 × 480	○	×	×	×

△ 重要

- ▶ マルチモニタ機能の注意
 - 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
 - セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。アプリケーションおよび Windows98 の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - 以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面のフルスクリーン表示
- ▶ アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

 - 1 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。
- ▶ 発色数についての注意
 - プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
 - High Color または True Color に設定してください。256 色に設定すると、正しく表示されないことがあります。
 - セカンダリアダプタは 256 色に設定できません。
- ▶ 解像度についての注意
 - プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
 - プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。



第3章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、設定を変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

1 BIOS セットアップとは	78
2 BIOS セットアップの操作のしかた	79
3 ご購入時の設定に戻す	84
4 メニュー詳細	85
5 BIOS のパスワード機能を使う	94
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	97

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、以下の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

◀ 重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（[P.79](#)）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

○ POINT

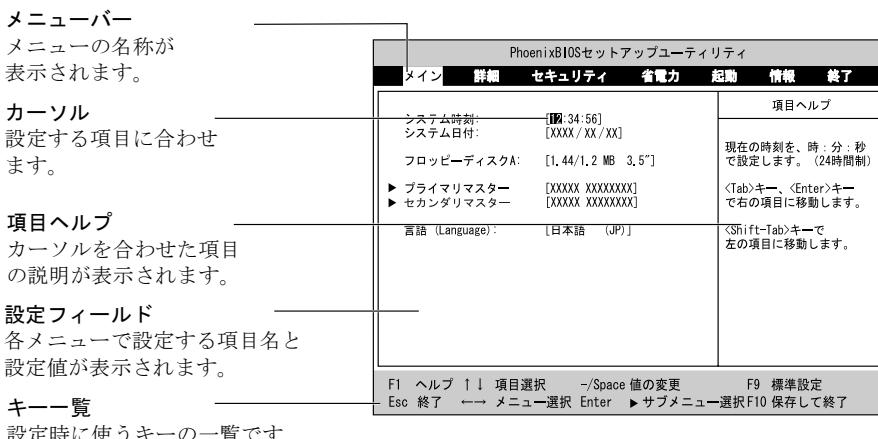
- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST：Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1** 作業を終了してデータを保存します。
- 2** 状態表示 LCD (☞P.11) に  や  が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
- 3** 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、 を押してください。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、以下のとおりです。



POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows98 が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で  を押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、「BIOS セットアップを起動」を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3 または を押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(…▶ P.83)

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「変更内容を取り消す」(…▶ P.82)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(…▶ P.84)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは を押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

	設定する項目にカーソルを移動します。
	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
	各項目の設定を次の設定値に変更します。
	メニューを切り替えます。
	印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
	標準設定値を読み込みます。
	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
+ +	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
+ +	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、 を押せば閉じます。

POINT

- ▶ ここでいう は のことです。
- ▶ + 、 + は、 を押しながら または を押す動作を表しています。

変更内容を取り消す

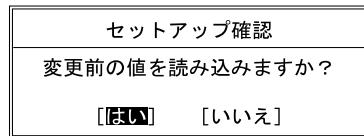
設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1** **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

- 2** **[↑]** または **[↓]** を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



- 3** **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 次の操作をすると、設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

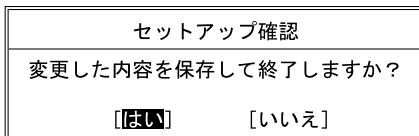
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

**3**

3 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。
「変更内容を取り消す」(☞ P.82)
- ▶ 次の操作をすると、いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

3 ご購入時の設定に戻す

「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。
すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

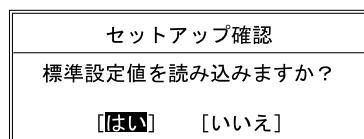
1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(☞▶ P.79)

2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

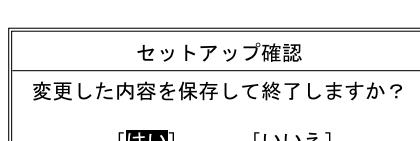
3 **[↑]** または **[↓]** を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。



4 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

5 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。



6 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 保存後に設定操作を続けたいときは、手順 5 で「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押してください。

4 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■ システム時刻

■ システム日付

■ フロッピーディスク A

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

■ プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

■ セカンダリマスター

CD ドライブのタイプと動作モードを設定します。

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(☞ P.93) を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

● シリンダ数

● ヘッド数

● セクタ数

POINT

- ▶ シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- ▶ 最大容量が 8.4GB を超えるハードディスクを取り付け、「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

■ 言語 (Language)

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、接続した周辺機器の設定などを行います。

- プラグアンドプレイ対応 OS
- デバイス設定の保護
- シリアル／パラレルポート設定

POINT

- ▶ I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てるとき、項目名の左に * が表示されます。ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。

- シリアルポート
 - I/O アドレス
 - 割り込み番号
- パラレルポート
 - モード

「ECP」は、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。
ECP モード用の「DMA チャネル」も設定してください。
 - I/O アドレス
 - 割り込み番号
 - DMA チャネル

ECP モードに設定したときに表示されます。

■ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- ▶ マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をスタンバイ状態にして接続してください。
- ▶ ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- ▶ 拡張キーボード／マウスコネクタに、『バーコードリーダ（FMV-BCR101）』、『バーコードタッチリーダ（FMV-BCR201）』、『磁気カードリーダ（FMV-MCR101）』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。また、「省電力モード」（…▶ P.90）の設定も「使用しない」に設定してください。
- ▶ 下記の「内蔵ポインティングデバイス」で「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、「ホットプラグ」は使用できません。

● 内蔵ポインティングデバイス

POINT

- ▶ Microsoft 社製の IntelliMouse™ は、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

■ ディスプレイ設定

● ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」でも切り替えることができます。
- ▶ 「ディスプレイの表示を切り替える」（…▶ P.68）

● 全体表示

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、[Fn] を押しながら [F5] を押すことで表示の切り替えを行うことができます。

■ その他の内蔵デバイス設定

- フロッピーディスクコントローラ
- IDE コントローラ

■ PCI 設定

● 割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたい場合に、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようにになります。

- IRQ 3 ~ IRQ 11

■ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

[Enter] を押すと、イベントログメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、下記のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。
 - ・ 訂正不可能なメモリエラー : XXXX
 - ・ POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX

- イベントログ
 - ・ システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■ 管理者用パスワード

管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。

■ ユーザー用パスワード

ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。

■ 管理者用パスワード設定

管理者用パスワードを設定します。

■ ユーザー用パスワード設定

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ ユーザー用パスワード文字数

「管理者用パスワード設定」が設定されている場合に設定できます。「ユーザー用パスワード設定」で設定するパスワードの最低文字数を設定します。

POINT

- ▶ 本設定はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■ 起動時のパスワード

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

■ レジューム時のパスワード

本項目は、本パソコンでは使用しません。

■ 取外し可能なディスクからの起動

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

■ フロッピーディスクアクセス

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

POINT

- ▶ 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS では、正しく動作しません。

■ ハードディスクセキュリティ

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

- プライマリマスター

本パソコンの内蔵ハードディスクに対応します。

- セカンダリマスター

本項目は、本パソコンでは使用しません。

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

■ 所有者情報

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

- 所有者情報

- 所有者情報設定

- 文字色

- 背景色

■ ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS では、正しく動作しません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ▶ 項目によっては設定が無効になることがあります。詳細は各項目の説明をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップでは「スタンバイ」のことを「サスPEND」、「休止状態」のことを「Save To Disk」と表記しています。

■ 省電力モード

本項目は、本パソコンでは使用しません。

- ハードディスク省電力

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

- ディスプレイ省電力

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「モニタの電源を切る」の設定が有効になります。

- スタンバイタイマー

本項目は、本パソコンでは使用しません。

- サスペンドタイマー

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、スタンバイします。

■ サスペンド動作

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。
- ▶ **[Fn]** を押しながら SUS/RES スイッチを押した場合は、本項目を「サスペンド」に設定しても、本パソコンは常に「Save To Disk」の動作を行い、休止状態になります。
- ▶ 以下の場合は、本項目を「Save To Disk」に設定したり、「自動 Save To Disk」の項目を「1 時間後に移行する」に設定しても、本パソコンは「サスペンド」の動作を行い、スタンバイ状態になります。
 - Save To Disk 領域があらかじめ作成されていないとき。
 - Save To Disk 領域は作成されているが、「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」が「使用する」に設定されているとき。
 - LOW バッテリ状態で自動的にスタンバイするとき。

- 自動 Save To Disk

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となります。

■ モデム着信によるレジューム

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。

■ 時刻によるレジューム

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目が無効となり、「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定した場合は、レジュームする時刻を時：分：秒（24 時間制）で設定します。

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目が無効となり、「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ 詳細設定

- サスPEND／レジュームスイッチ
- カバークローズ サスペンド

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。

- カバーオープン レジューム
- シリアルマウス

本項目は、本パソコンでは使用しません。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■ 高速起動

■ 起動時の自己診断画面

■ 起動デバイスの優先順位

起動デバイスの優先順位を設定します。 または で順位を変更するデバイスを選択し、 を押します。 を押すと選択したデバイスがリストの上側に移動し、 を押すとリストの下側に移動します。

- フロッピーディスク ドライブ

フロッピーディスクから起動します。

- ハードディスク ドライブ

ハードディスクから起動します。

- ATAPI CD-ROM ドライブ

CD から起動します。

POINT

- ▶ CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。
再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

■ BIOS 版数

■ BIOS 日付

■ BIOS 領域

■ CPU タイプ

■ CPU 速度

■ L1 キャッシュ

■ L2 キャッシュ

■ 全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

- 標準メモリ

本パソコンに標準で取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

- メモリスロット

拡張 RAM モジュールスロットに取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

- 変更を保存して終了する
- 変更を保存せずに終了する
- 標準設定値を読み込む
- 変更前の値を読み込む
- 変更を保存する

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためにパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

● 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

● ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。
「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、以下のとおりです。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」（[P.79](#)）

2 セキュリティメニュー（[P.88](#)）の「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して [Enter] を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[]
新しいパスワードを確認して下さい。[]

または

ユーザー用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[]
新しいパスワードを確認して下さい。[]

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、一般利用者用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」(..▶P.88) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら [Enter] を押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

※ 重要

- 管理者用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 [Enter] を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。[Enter] を押して、手順 3 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、[Enter] を押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- Windows98 の場合、「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

※ 重要

- ハードディスクセキュリティ (..▶P.89) を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定した管理者用パスワードもしくはユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるときには、そのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを変更する／削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (…▶ P.94) を行います。**
- 2 設定してあるパスワードを入力し、[Enter] を押します。**
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3 8 行までの新しく設定したいパスワードを入力し、[Enter] を押します。**
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れるはパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

- 4 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。**
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 5 [Enter] を押して、設定を終了します。**
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。[Enter] を押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、[Enter] を押してください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外の時は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順にしたがって処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(…▶ P.84)

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (⇒ P.78) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- <ESC> キー：自己診断画面／<F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に [Esc] を押すと起動時の自己診断画面が表示され、[F2] を押すと BIOS セットアップが起動します。また、[F12] を押すと「起動メニュー」画面 (⇒ P.79) が表示されます。
- <F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に [F12] を押すと「起動メニュー」画面 (⇒ P.79) が表示され、[F2] を押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、[Esc] を押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」 (⇒ P.92) の項目を「表示する」に設定してください。

エラーメッセージ

● システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx

誤りビット : zzzz zzzz

システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● 拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx

誤りビット : zzzz zzzz

拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● メモリキャッシュのエラーです。--キャッシュは使用できません。

キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボードコントローラのエラーです。

キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● フロッピーディスク A のエラーです。

フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。

もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● ディスクエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は **[F1]** を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は **[F2]** を押してください。

- <F1> キー：継続／<F2> キー：BIOS セットアップ

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。**[F1]** を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、**[F2]** を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- 日付と時刻の設定を確認してください。

日付と時刻の設定値が不正です。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- パスワードで保護されています。 : ハードディスク n

取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- サポートされないタイプのメモリが検出されました。

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- メモリタイプのエラーです。 : SPD が 66MHz のメモリを示しています。

本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- NVRAM データが正しくありません。

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。

システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。

メモリ速度 100MHz で起動しますか？

<Y>を押すとこのまま起動し、<N>を押すとシステムを停止します。

メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。

[N] を押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。

メモリ速度 100MHz で起動します。

メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。

ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。

- ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。

ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、休止状態にできないことを示しています。

- ハードディスクが検出されませんでした。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 不明な Save To Disk エラーが発生しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクからの読み取りに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクへの書き込みに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(…▶ P.106)

- Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[]などを押してください。

- Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[]などを押してください。

- Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

第4章

技術情報

本パソコンのお手入れや注意事項などを記載しています。

1 ハードウェアのお手入れ	104
2 Save To Disk 領域	106
3 省電力の設定	110
4 外部ディスプレイの走査周波数	114
5 音量の設定について	116

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3カ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116

(富士通ワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

お手入れのしかた

- 1** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2** 「名前」に次のように入力して **[Enter]** を押します。
c:\fjuty\clndsk 0
「clndsk」と「0」の間は、 を1回押してください。「0」は数字の「ゼロ」です。
- 3** クリーニングフロッピーをセットして **[Enter]** を押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4** フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

廃棄について

本パソコンの液晶ディスプレイ（LCD）内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。また、本パソコンはリチウム電池を、またバッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

2 Save To Disk 領域

Save To Disk 領域について

休止状態では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ休止状態用の保存場所が確保されています。この休止状態用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなった場合は、休止状態にできなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量＝メインメモリ容量 + （ビデオメモリ容量／その他）

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大emainメモリの容量 (増設時)	ビデオメモリ容量／その他
約 196MB	192MB	約 4MB

POINT

- ▶ Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が「区画設定」で作成されています。
- ▶ 「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成している場合は、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。
- ▶ Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

Save To Disk 領域を変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は⑩「リカバリ CD-ROM1/2」に入っています。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。

PHDISK ユーティリティを起動する

- 1** パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2** キーボードの **[F12]** の位置を確認します。
パソコンの電源を入れたあと、すぐこのキーを押せるようにしてください。
- 3** パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」のロゴマークが表示されている間に、
[F12] を押します。
しばらくすると、「起動メニュー」が表示されます。
- 4** ⑩「リカバリ CD-ROM 1/2」をセットします。
- 5** **[↑]** または **[↓]** を押して「ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、**[Enter]** を押します。
ソフトウェアの使用条件を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 6** 画面に表示されている内容をよくお読みになり、**[Y]** を押します。
ソフトウェアの使用条件は、全部で 3 ページあります。次のページに進むときは
[Pg Dn] を押してください。

POINT

- ▶ ソフトウェアの使用条件を確認するダイアログボックスが表示されない場合は、もう一度⑩「リカバリ CD-ROM1/2」をセットし直してください。それでも表示されない場合は、画面の指示に従ってください。

- 7** **[↓]** を押して「終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
- 8** 終了を確認する画面で **[Y]** を押します。
- 9** 「Z:¥ >」のあとに、次のように入力し、**[Enter]** を押します。
Phdisk {オプション}

■ コマンド

PHDISK {オプション}

```
└── /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
   /INFO
   /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)
   /REFORMAT /PARTITION
```

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

■ オプション

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/ の前は、 を 1 回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

● 作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)

Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使用します。

/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。

/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。

Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つかった場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

● 削除 : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)

すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。

/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。

Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

● 再フォーマット : /REFORMAT /PARTITION

区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。

このオプションは、休止状態にしていて、読み出しえラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つかった場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

● 詳細情報 : /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

- 表示例：区画設定で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報 :

開始セクタ :XXXXXX (ヘッド X、シリンド XXX、セクタ X)

全容量 :XXXXXX バイト

現在の状態 :

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

- 表示例：ファイル形式で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報 :

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C:\SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読み取り専用です。

現在の状態 :

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

POINT

- ▶ Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。
- ▶ 区画として Save To Disk 領域を作成する場合は、FDISK ユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。
- ▶ 「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。
- ▶ Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。
再起動せずに休止状態にすると、正しく動作しない場合があります。
- ▶ 区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。
- ▶ 作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

3 省電力の設定

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリで使うときに節電されるように設定されています。節電の設定は、通常お使いになるうえでは、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows98 の「電源の管理」または「PMSet98」を使います。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときなどは、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスを表示する

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。

設定を変更する

POINT

- ▶ 変更のしかたや設定項目については、Windows98 のヘルプをご覧ください。

■「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定します。「ポータブル／ラップトップ」の「システムスタンバイ」でスタンバイするまでの時間を選択してください。

この場合、スタンバイしたときのメモリ内のデータなどの保存先は、システム RAM になります。

■「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときにWindows98 が出す警告についての設定をします。

「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」をクリックして□にしないでください。バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

POINT

- ▶ バッテリの残量が約 12%以下の状態を、「LOW バッテリ状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリ残量表示（状態表示 LCD の□）が点滅します。
「LOW バッテリ状態」(⇒ P.31)

■「詳細タブ」

SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します。ご購入時は、スタンバイに設定されています。

POINT

- ▶ SUS/RES スイッチを押したときの状態は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で設定できます。
- ▶ カバークローズスイッチを押したときの状態は、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で設定できます。

■「休止状態」タブ

本パソコンを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックしてにすると、「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できます。ご購入時は、に設定されています。

POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスに「休止状態」タブが表示されない場合は、Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。
「Save To Disk 領域について」(⇒ P.106)

PMSet98 で設定を変更する

PMSet98 には、現在の設定内容が表示される「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示する

- タスクバーの⑩または⑪をダブルクリックします。
「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



POINT

- タスクバーに⑩または⑪が表示されていない場合は、「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタン→「プログラム」→「PMSet98」→「1.PMSet98」の順にクリックし、PMSet98 を起動してください。
- バッテリの充電中は、タスクバーの⑪が点滅しています。
- PMSet98 は、Windows98 を起動するたびに自動的に起動します。
- PMSet98 を使用しない場合は、タスクバーの⑩または⑪を右クリックし、「終了」をクリックします。

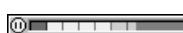
インジケータを表示する

インジケータには、バッテリ残量や電源の状態が表示されます。

- 1 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示します。**
- 2 「インジケータ」タブをクリックします。**
- 3 「インジケータを表示する」をクリックしてにします。**
- 4 「表示位置」のをクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。**
- 5 「OK」をクリックします。**

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

 : ACアダプタ接続時

 : バッテリで使用時

POINT

- ▶ 表示位置について
 - ・ インジケータと他のウィンドウが重なった場合は、インジケータが常に前面に表示されます。
 - ・ インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
 - ・ 「自由位置〔ドラッグして位置決め〕」にすると、好きな位置に表示できます。
- ▶ 「種類」のをクリックすると、インジケータの種類を選べます。
- ▶ 電源の状態が表示されないときは、「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてにします。

設定を変更する

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスで設定できる項目について説明します。

■ LCD バックライト

液晶ディスプレイの明るさ (LCD バックライト) を変更して、節電するかどうかを設定します。 「電源依存」タブの「LCD バックライト」で、AC アダプタで使っているときとバッテリで使っているときを、別々に設定できます。明るさは 8 段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。

設定を変更した場合は、「適用」または「OK」をクリックしてください。

POINT

- ▶ **[Fn]** を押しながら **[F6]** または **[F7]** を押しても、LCD バックライトの明るさを変更できます。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(☞ P.35)
- ▶ 本パソコンでは、「CPU クロック」の項目は設定できません。

4 外部ディスプレイの走査周波数

外部ディスプレイ表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選択することができます。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ P.68)

解像度（ドット）	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64	60

同時表示の場合

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」を有効にした場合
外部ディスプレイの走査周波数は以下のように設定できます。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」を無効にした場合
外部ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
37.9	60

POINT

- ▶ お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
「リフレッシュレートを変更する」(…▶ P.72)

5 音量の設定について

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「マスタ音量」ダイアログボックスでそれぞれの音量を調節します。

「マスタ音量」ダイアログボックスを表示するには、タスクバーの  (音量) をダブルクリックします。

POINT

- ▶ 項目名のあとに※が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。
- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 - 1 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 - 2 「表示するコントロール」で、項目をクリックして にします。項目が表示されるようになります。
- ▶ 解像度によっては、「マスタ音量」ダイアログボックスなどの一部を表示できないことがあります。

再生時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウインドウで「再生」をクリックして にし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。

項目	ミュート	設定する音量
マスタ音量	×	パソコン全体の音量
WAVE	×	Wave ファイルの音量
MIDI	×	MIDI の音量
Line ※	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の音量
Aux ※	○	未使用
PC Beep ※	○	未使用
Video ※	○	未使用
Phone	×	モデムの音量
PCM Out ※	×	WAVE と MIDI との音量を同時に変更するための項目（通常は未使用）

POINT

- ▶ ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

録音時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックして にし、「OK」をクリックすると、録音時の音量を設定できます。

項目	選択	設定する音量
Wave	×	再生音全体の録音音量
I2S ※	×	未使用
Line In	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の録音音量
Aux ※	×	未使用
Video ※	×	未使用
Phone ※	×	モデムの録音音量
Stereo Mix ※	×	録音全体（ステレオ）の録音音量
Mono Mix ※	×	未使用

索引

A

- AC (エーシー) アダプタ表示 16
- Alt (オルト) キー 20
- Application
(アプリケーション) キー 20

B

- Back Space
(バックスペース) キー 19
- BIOS セットアップ 78
 - 一画面 79
 - 一の各キーの役割 81
 - 一の設定を変更する 80
 - 一の変更内容を取り消す 82
 - 一を起動する 79
 - 一をご購入時の設定に戻す 84
 - 一を終了する 83
- BIOS のパスワード機能を使う 94

C

- Caps Lock
(キャップスロック) 英数キー 19
- Caps Lock (キャップスロック) 表示 17
- CD アクセス表示 16
- CD (シーディー) ドライブ 13
- Ctrl (コントロール) キー 20

D

- DC-IN (ディーシーイン) コネクタ 15
- Delete (デリート) キー 19

E

- End (エンド) キー 19
- Enter (エンター) キー 19
- Esc (エスケープ) キー 18

F

- Fn (エフエヌ) キー 20

H

- High Color (16 ビット) 36, 71
- Home (ホーム) キー 19

I

- Insert (インサート) キー 18

L

- LAN (ラン) カード 44
- LOW バッテリ状態 31

M

- MAIN (メイン) スイッチ 14

N

- Num Lock
(ニューメリカルロック) キー 18
- Num Lock
(ニューメリカルロック) 表示 17

P

- Page Down (ページダウン) キー 19
- Page Up (ページアップ) キー 19
- PC (ピーシー) カード 44
 - 一アクセス表示 16
 - 一スロット 14
 - 一取り出しボタン 14
 - 一をセットする 45
 - 一を使うときの注意 44
 - 一を取り出す 46
- PDC (ピーディーシー) コネクタ 15
- PHS 接続用 USB ケーブル 57
- PHS を接続する 56
- PHS (ピーエイチエス) 56
- PHS 接続カード 44
- PIAFS (ピアフ) 57
- PMSet98 112
- POST (ポスト) 78
- Print Screen
(プリントスクリーン) キー 18
- PS/2 マウスの接続 60

S

Save To Disk 領域	106
Scroll Lock	
(スクロールロック) 表示	17
SCSI (スカジー) カード	44
Shift (シフト) キー	19
SUS/RES (サスレス) スイッチ	11
SUS/RES (サスレス) 表示	16

T

True Color (32 ビット)	36, 71
---------------------	--------

U

USB (ユースピー) コネクタ	15
USB マウス	61

W

Windows (ウィンドウズ) キー	20
---------------------	----

あ

液晶ディスプレイ	10
一の明るさ	35
エラーメッセージ	99
お手入れ	104
音量ボリューム	13
音量の設定について	116

か

カーソルキー	19
解像度	36, 71, 75
一を変更する	37
外部ディスプレイコネクタ	15
外部ディスプレイの走査周波数	114
外部ディスプレイを接続する	66
拡張 RAM (ラム) モジュール	48
拡張キーボード／マウスコネクタ	15
各部の名称と働き	10
カバークローズスイッチ	11
管理者用パスワード	94
キーボード	11, 18
起動時の自己診断テスト	78
起動メニュー	92
休止状態	21, 26
空冷用ファン	14

携帯電話	56
一接続用 USB ケーブル	57
一を接続する	56

さ

充電する	28
周辺機器	42
終了メニュー	93
詳細メニュー	86
状態表示 LCD (エルシーディー)	11, 16
省電力の設定	110
省電力メニュー	90
情報メニュー	92
シリアルコネクタ	15
スタンバイ	21, 22
スタンバイ／休止状態	21
スピーカー	11
正常時のメッセージ	98
セキュリティメニュー	88
走査周波数	114

た

ディスプレイの表示を切り替える	68
デジタル携帯電話接続カード	44
テンキーボードの接続	62
テンキーモード	20
電源の管理	110
盗難防止用ロック	14

な

内蔵バッテリパック	14
一を交換する	33
内蔵マイク	11

は

ハードウェアのお手入れ	104
ハードディスクアクセス表示	16
廃棄	105
パスワード	94
一を削除する	96
一を設定する	94
一を変更する	96
パソコン本体のお手入れ	104
発色数	36, 71, 75
一を変更する	37

バッテリ	28
－残量表示	16
－充電表示	16
－装着表示	16
－で使う	29
－の異常表示	30
－の残量表示	30
－の注意	32
パラレルコネクタ	15
半角／全角キー	19
ファンクションキー	18
フラットポイント	11
プリンタを接続する	63
プリンタを使うときの注意	65
フロッピーディスクアクセス表示	16
フロッピーディスクドライブ	13
－のお手入れ	104
ヘッドホン・ジャック	12

ま

マイクイン・ジャック	12
マウス	60, 61
マルチモニタ機能	74
メインメニュー	85
メッセージ一覧	97
メッセージが表示されたときは	97
メモリ	48
モジュラーコネクタ	13
モデル	4

や

ユーザー用パスワード	94
------------	----

ら

ラインイン・ジャック	12
ラッチ	10
リフレッシュレートを変更する	72
レジューム	24, 27

わ

ワンタッチボタン	11
----------	----

MEMO

MEMO

FMV-BIBLO NE4/45K

ハードウェアガイド

B5FH-0211-01-00

発行日 2000年5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

